

大切なポイント

1. 自己観察

1) パウロの得た祝福

- ・人間はなかなか自分が見えないものです。人の良くない点は見えますが、自分を見ることができません。あるいは、自分を見たくないという意味が働いているのかも知れませんね。世の中の多数の人々は、自分を見ているようで実は見ていません。
 - ・しかし「弱いけど大丈夫」と言える人は、自分を見ている人です。自分は弱いと承知しているのです。ところで、著者パウロは、神の特別な恵みでパラダイスにまで引き上げられた人でした。人間として誰もが見たいという大きな願望が実現した人でした。そのような人は他にいません。
- その時です。神はパウロをこのようにされました。

12:7 その啓示のすばらしさのため高慢にならないように、私は肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。

2) 一つのとげ

- ・彼は高慢にならないために、「一つのとげ」が与えられたと言いました。ここに、「とげ」と高慢という関係があります。「とげ」は原語で、“skoropus(スコロプス)”，杭を意味します。杭は地に刺すために先がとがっていますが、神はパウロのからだに「とげ」を刺されました。
 - ・私たちは手足に小さな異物が入っただけでも、非常な痛みを覚えます。その痛みのように、彼は痛みを覚えました。「とげ」の解釈について聖書は書いていませんが、聖書学者は次のように考えています。
 - ① 強度の近眼
 - ② 持病の「てんかん症」
 - ③ 背丈が非常に低かった
 - ・そして彼は、この「とげ」はサタンの使いによると理解していました。いかがでしょうか……。
 - ・私たちにも、何か「とげ」があるかもしれません。それは痛みではありますが、自分を見るために、必要なことかも知れません。その「とげ」は他人には不明かもしれません。しかし自分には分かります。どうすれば良いのでしょうか？ 正直に、「とげ」と向き合うことです。
 - ・聖書は自分の心を映し出してくれる鏡です。そこで聖書という鏡の前に、まず自分を置いてみようではありませんか。
 - ・聖書：義人はいない。一人もいない。悟る者はいない。
神を求める者はいない。 ローマ3：10、11
- 聖書は、神の前で正しい人は一人もいない。と教えています。神の前に義人は一人もいません。ですから、私も正しい者ではないということです。これが、まず第一に覚えなければならない点です。 (自己観察)

2. 自己受容

12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。それは私が高慢にならないように、私を打つためのサタンの使いです。

- ・著者パウロは、自分の「とげ」である弱さを受け止めていることが分かります。それは自分が高慢にならないように、「とげ」が与えられたと言いました。
- ・彼は何とかして、「とげ」が自分から取りさられるように、神に3度願い求めました。

12:8 この使いについて、私から去らせてくださるようにと、私は三度、主に願いました。

ユダヤ人の彼にとって、3という数字は完全数ですから、真剣に取り除いてくださるよう願ったことがわかります。しかし、それは答えられませんでした。

- ・「一つのとげ」は彼の弱さでした。彼はきっと「とげ」がなければと思ったに違いありません。しかし、神の視点からご覧になると、この「とげ」が必要でした。それは高慢にならないためと、彼は「とげ」を受け止めたのでした。

{例話1} Jakob Esau 師の息子 ロシア

- ・私の生涯で決して忘れることができない方々があります。私は若い時（20代から30代）、世界的な器である聖徒たちに出会いました。当時は、もちろん何も分かりませでしたが、あれから約50年の年月が経過し、彼らがどれほど神に用いられた器であったかを知りました。
- ・その中の1人は、Jakob Esau 世界巡回伝道師でした。彼の長い人生の証は省略しますが、かつてソ連時代には伝道師として4度の逮捕、25年以上のシベリアでの強制労働収容所生活は、涙なくして聞くとはいけません。（詳しくは私の本「無から有を生み出す神」を読みいただきたい。）
- ・神の奇跡によって、彼は不思議な方法でドイツへ出てくることができました。そして余生はドイツの刑務所の教誨師として、罪を犯して刑務所生活を送っている囚人たちに、キリストの愛を宣べ伝えるものでした。
- ・ある時、私は彼が住んでいたパーダーボーン（Paderborn）を訪ねました。彼は私を温かく迎えてくださり、幸いな交わりが与えられました。彼には10人の子どもいます。子どもたち両親とも共にドイツへ渡ってきましたが、1人だけロシアにいます。
- ・彼はこの息子のことを語り始めました。Jakob Esau 師がロシア・モスクワへ伝道に行った時のこと、その息子からホテルに電話がかかってきました。どうして、父親の自分がいることが分かったか不明でしたが、とにかく息子から電話が入り何年振りに会話することができました。
- ・その息子は今、神から離れロシア・マフィアの悪のグループに入っている、と Esau 師は言われました。子どものことで苦労しない親はいませんが、Esau 師のシベリア生活の苦労は並大抵ではありませんでした。しかし、それでも神は彼に、1人の息子がロシア・マフィアのグループに入り、暗い世界で動くことを許されています。
- ・Esau 師は、「自分が高慢にならないために、神はこの試練を置いておられる。」と涙ながらに語

られました。私も流れ出る涙をこらえることができませんでした。私はもう脱帽しました。Esau 師ほどの器であっても、「ひとつのとげ」が与えられていました。彼はそれをただ受け止めていたのでした（自己受容）

- その後、その息子はどうなったか不明です。彼は、息子のために祈らない日はない、と言われました。彼は静かに、その状態を受け止めていました（受容）。忘れられない、私の思い出のひとつです。

- 鏡の前で見る状態を、そのまま受け止めることは易しいことではありません。しかし、パウロはこう言いました。

12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。

パウロには、神へのまったき信頼がありました。ここに、自己受容したパウロを見ることができます。

3. 自 己 認 識

12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。 2 コリント

- さらに、パウロは「とげ」という弱さについて述べました。彼はその弱さを認識することによって、キリストの力が弱さをおおう経験をしました。それがあまりにも素晴らしいので、彼は「むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」と述べたのです。
- 愛する皆さん！ 私たちには大なり小なり、弱さがあります。しかし、その弱さは、決して無駄ではありません。いいえ、神は「わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われます。神を信じ歩む人生は、弱さがあっても、弱さをおおってくださる神の力を経験するものです。
- 神がおおってくださるならば、そこには神の守りがあります。神が与えてくださる平安、慰め、勇気、励ましがあります。パウロはこれらを「キリストの力」と表現しました。なんという幸いでしょうか。

{例 話}

- 米国のファニー・クロスビー（Fanny Crosby）女史のお話しです。彼女は生後6週間で風邪を引き、目に炎症を起こしました。たまたまホームドクターが不在であったため、見知らぬ医師を呼びました。ところが医師は処置を誤り、彼女は失明してしまいました。
- そして全盲という大きなハードルを背負うことになりました。普通であれば、人生をはかなく思い、失望してもおかしくありません。ところが、彼女はイエス・キリストにお会いしクリスチャンとなりました。彼女はイエスに出会ったことにより、人生が変えられました。心に平安と喜びを見出したのです。彼女は90歳を過ぎるまで、なんと8千曲もの讃美歌の詩を書きました。
- 彼女は肉体のハンディーを持ちながら、神に用いられた理由を次のように語っています。
「私は今までただの一度も、その医師に対してひとかけらの恨みする抱いたことはありません。

それは若いころから今に至るまで、神の無限のいつくしみを信じることができたからです。だれよりも私は祝福され、幸福感がたましいの底まで満ちているのに、どうして愚痴をこぼす理由などあるのでしょうか。」

- ・皆さん。ファニー・クロスビーを通して、私たちは何を教えられるのでしょうか。それは、神を信じる人の幸いです。彼女は又、こう述べています。 「盲目の人は、目の見える人のなしているほとんど全てのことを達成できる。」 なんとという力強い言葉ではありませんか。彼女こそ、まさしく「弱いですが大丈夫です！」という人です。それは、イエス・キリスが私たちの弱さに働いてくださり、「キリストの力」を現してくださる人生です。
- ・イエスは言われました。

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。マタイ 11：28

- ・私たちの人生は一度しかありません。大変貴重です。人生にはハプニングや試練、困難があります。時には、倒れそうになることもあるでしょう。しかし、聖書は私たちに大丈夫という人生がある、と勧めています。
- ・では、どうすれば良いのでしょうか。まとめてみましょう！

まとめ

主 題：「弱いけど大丈夫です！」

—人生は変わる—

- ・私たちは人生において、大切なことが3点あります。
 1. 自己観察
 2. 自己受容
 3. 自己認識
- ・ここに私たちが確かな人生を送る秘訣があります。パウロは自分の人生を振り返り、言いました。

12:9 しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。 2コリント
- ・私たちも、パウロのように弱さを誇れる人生を送ろうではありませんか。

* God bless you!